

1 予算案のポイント

一般会計当初予算の規模

6,189億円 (対前年度 +18億円・+0.3%)

- ・ 過去最大の規模 (過去の減債基金からの借入額 145億円を除いた場合3位)

市税収入 **2,963億円** (対前年度 +40億円・+1.4%)

- ・ 当初予算としては2年連続で過去最大

市債 **516億円** (対前年度 Δ 242億円・ Δ 31.9%)

- ・ 13年度以降、最も低い水準で、31.9%の大幅減
- ・ 臨時財政対策債の減、等々カ陸上競技場メインスタンドなどの公共施設の再整備の完了などにより大幅に減

減債基金新規借入金

54億円

- ・ 普通交付税・臨時財政対策債の減など、極めて厳しい財政状況においても、「最幸のまち かわさき」の実現に向けた取組を切れ目なく推進



**「成長と成熟の調和による持続可能な
最幸のまち かわさき」をめざします**

～「安心のふるさとづくり」～

○継続的な待機児童の解消

保育受入枠の拡大
質の高い保育所等の運営
ニーズに対応した利用者支援
などの対策を推進

○小児医療費助成制度の拡充

小学校2年生までの通院助成の拡大
(28年度の小学校3年生までの拡大に
向けて段階的に実施)

○中学校完全給食の早期実施

学校給食センターの整備
自校調理方式施設の整備
東橘中学校での完全給食の試行実施

～「力強い産業都市づくり」～

生命科学・医療・介護等の成長分野における

○産業イノベーション、 オープンイノベーションの推進

国際空港・羽田と川崎港を通じて世界とつながる

○臨海部における国際戦略拠点の形成

○交通ネットワークの充実・強化

○都市拠点形成による都市基盤の整備

などについても着実に推進



持続可能な行財政基盤を構築します

① 市役所内部改革

「川崎市行財政運営に関する改革プログラム」に基づき、民間部門の活用等による改革を切れ目なく推進

② 施設整備事業等の見直し

中長期的な財政収支を見据えた総合的な調整及び効率的・効果的な手法等の導入を実施

③ 既存事業等の廃止・見直し

当初の目的が既に達成されたもの、より効果的な手法に見直す必要があるものなどについて、聖域なき、ゼロベースでの見直しを積極的に推進

「最幸のまち かわさき」の実現に向けた取組を切れ目なく推進するための財源対策を実施します

本市の財政は、対前年度予算比較で市税が 40 億円、地方消費税交付金が 92 億円増加するものの、

◆ 普通交付税・臨時財政対策債の減少

〔 前年度の予算との比較で $\Delta 159$ 億円
前年度の決算見込との比較で $\Delta 92$ 億円 〕

◆ 法人市民税の税制改正による減少 (影響額 $\Delta 22$ 億円)

〔 法人市民税(地方税)の一部について、国税化(地方法人税を創設)し、
交付税の原資としたもの 〕

などにより、歳入全体の増加が見込めない一方で、

◆ 社会保障関連経費の増加

◆ 公共施設の長寿命化の取組

などの財政需要もあり、収支不足が見込まれる厳しい財政状況にあります。

こうした中においても、これまで計画的に進めてきた施策、あるいは少子化対策・国際戦略拠点の形成など、将来に向けて必要となる施策については、時機を逸することなくしっかり取り組む必要があります。

収支不足については、収支見通しをしっかりと踏まえた上で、減債基金からの新規借入れにより対応してまいります。

2 予算の規模

27年度の一般会計、特別会計及び企業会計を合わせた全会計の予算規模は、
1兆3,387億8,266万円で、前年度に比べ**28億円の増(+0.2%)**となっています。

会計名	27年度予算	26年度予算	増減率
一般会計	6,188億7,204万円	6,171億1,666万円	0.3%
特別会計 (13会計)	4,995億700万円	4,821億6,050万円	3.6%
企業会計 (5会計)	2,204億362万円	2,366億8,315万円	△6.9%
合計	1兆3,387億8,266万円	1兆3,359億6,031万円	0.2%

※端数処理の関係で、合計欄の予算額と各会計の予算額の合計が一致しない場合があります。

一般会計は 18 億円・0.3%の増

等々力陸上競技場メインスタンド改築工事の完了や子母口小学校・東橋中学校の合築工事の進捗による減の一方で、民間保育所受入枠の拡大や中学校完全給食の実施に向けた取組による増などにより、**前年度に比べ18億円の増(+0.3%)**となっています。

※ 一般会計について、過去の減債基金からの借入額(27年度145億円、26年度127億円)を除いた場合の予算額は、27年度6,043億7,204万円、26年度6,044億1,666万円、4,462万円の微減となります。

特別会計は 173 億円・3.6%の増

港湾整備事業におけるモータープール施設整備に向けた用地取得の完了や、公債管理会計における市債の償還元金の減の一方で、国民健康保険事業の制度改正による共同事業拠出金の増などにより、**特別会計(13会計)合計では前年度に比べ173億円の増(+3.6%)**となっています。(95ページ参照)

企業会計は163億円・6.9%の減

地方公営企業会計基準の見直しによる退職給付引当金計上額の減などにより、**企業会計（5会計）合計では前年度に比べ163億円の減（△6.9%）**となっています。

（89～94 ページ参照）



- （左から）
- ・下水道キャラクター 「カッピー」
 - ・水道キャラクター 「ウォータン」
 - ・市バスイメージキャラクター 「かわさきノルフイン」

